

小学校社会科の模擬授業の振り返りシートの開発

—ユニバーサルデザインの視点—

田並 尚恵*1

要 旨

中教審が2006年に実践的指導力について言及し、模擬授業の効果を例示して以来、模擬授業の実践や模擬授業の効果に関する調査研究が数多く報告されている。教員養成課程の模擬授業の振り返りに授業UDの視点を取り入れた先行研究は少数にとどまるが、授業UDの視点が学生の授業分析や省察を行う共通の足場になることが指摘されている。本研究では、授業UDの視点を取り入れた社会科模擬授業の振り返りチェックシートを開発した。授業UDは、すべての子どもが学びやすい、分かりやすい授業が目標である。授業UDの視点を模擬授業に取り入れることで、学生が授業分析や省察の視点を獲得し、実践的指導力を向上させるのに役立つと考える。

Key words : 模擬授業, 小学校教員養成課程, 社会科, 授業のユニバーサルデザイン
mock class, elementary school teacher training program, social studies for elementary school student, universal design for learning

1. はじめに

模擬授業は、教職課程の学生や研修中の教師が、授業の組み立て方や指導法などを体験的に学び、検討するために、実際の授業を想定した場で実践を模して行う授業である¹⁾。

模擬授業については、2006年に中央教育審議会が、実践的指導力について言及し、模擬授業の効果を例示したことから²⁾、その重要性が認識され、積極的な活用が期待されている。このような経緯から、多くの教員養成課程では、教科教育法の授業のなかで模擬授業が積極的に行われるようになり、模擬授業の実践例の報告や模擬授業を通して学生が実際にどのような能力を身につけているのかを明らかにした調査研究が行われてきた³⁾。だが、小学校の教員養成課程において、通常学級の模擬授業の評価や振り返りに、授業のユニバーサルデザイン(以下授業UDとする)の視点を取り入れた実践報告や研究は、少数にとどまる。授業UDは、もともとアメリカ・ノースカロライナ州立大学のロナルド・メイスが提唱したユニバーサルデザインを教育に応用したもので、日本UD学会では、授業UDを「特別な支援が必要な子を含めて、通常学級の全員の子が、楽しく学び合い『わかる・できる・探究する』ことを目指す授業デザイン」と定義している⁴⁾。藤本ら(2018)は、小学校の理科指導法の授業において、授業UDの視点が、学生が授業を分析したり、省察したりする際の客観的な足場となっていることを明らかにした(p.104)⁵⁾。竹内(2019, 2020)は、小学校教員養成課程の学生を対象に、特別支援学級の国語の授業VTRを視聴してもらい、学生がどの程度、授業UDとして工夫された点に着目できるかを調査し、学生が学習環境よりも指導法に着

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科

目していることを明らかにした^{6,7)}。また、教員養成課程の学生を対象とした調査研究ではないが、天野(2018)は、小学校の若手教員の指導力向上にUDの視点が有効であることを指摘している⁸⁾。これらの先行研究から分かるのは、授業UDの視点は、教員養成課程の学生や若手教員の実践的指導力を育成する重要な視点になるのではないかということである。文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」(2022)によれば、通常学級に在籍する小中学生のうち、学習や行動面で著しい困難を示す児童生徒が8.8%おり、前回調査(2012)の6.5%と比べて2.3ポイント増加したことが明らかになった⁹⁾。このような児童の現状からも、教員養成課程の学生にとって、授業UDの視点は重要になると考えられる。そこで、本研究では、授業UDの視点ならびに社会科の授業UDの視点とその課題を整理し、教員養成課程の学生が小学校社会科の模擬授業の振り返りに用いることができるよう、授業UDの視点を取り入れたチェックシートを提案したい。

2. 社会科における授業UDの視点

2.1 授業UDの視点

2017年告示の小学校学習指導要領では、すべての教科に対して「障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと」が示された¹⁰⁾。これには、学習や行動面で著しい困難を示す児童を含め、すべての児童の学びを保障する授業のUD化が求められていると小貫(2018)は指摘している¹¹⁾。授業UDは、発達障害のある子の困っている状態に寄り添うことを通し、その子を含めたすべての子に分かりやすく、学びやすい授業づくり¹²⁾を目指すもので、特別支援教育だけでなく、多くの通常学級においても実践されている¹³⁾。図1は、小貫(2012)が提案した授業UD化モデルである¹⁴⁾。図の中央が、授業での「学び」の階層モデルで、参加、理解、習得、活用の四層からなる。左側には発達障害のある児童が授業のバリアとなる特徴が示され、右側にはそのバリアを除く工夫として必要な視点が示されている。指導方法の工夫として、「参加」には、間違っただけや分からないことなどを安心して言える「クラス内の理解促進」、質問、意見、話し合いのルールを設定する「ルールの明確化」、集中の妨げになる教室内の刺激を制限する「刺激量の調整」、教室の空間に一定の規則性をもたせる「場の構造化」、授業ごとの流れを示す「時間の構造化」が含まれる¹⁴⁾。次の「理解」には、授業のねらいや活動を絞り込む「焦点化」、授業展開を分かりやすくする「展開の構造化」、達成までのプロセスを細かい段階設定にする「スモールステップ化」、情報を見えるようにする「視覚化」、動作や作業などによる「身体性の活用」、ペア学習など子ども同士の活動により理解を助けたり、深化させたりする「共有化」、があげられる¹⁴⁾。「習得」には、既習学習の復習を授業にいれる「スパイラル化」があげられる¹⁴⁾。「活用」には、習得したことを別の課題に適用できるようにする「適用化」、習得したことを実用的に使用できるようにする「機能化」があげられる¹⁴⁾。

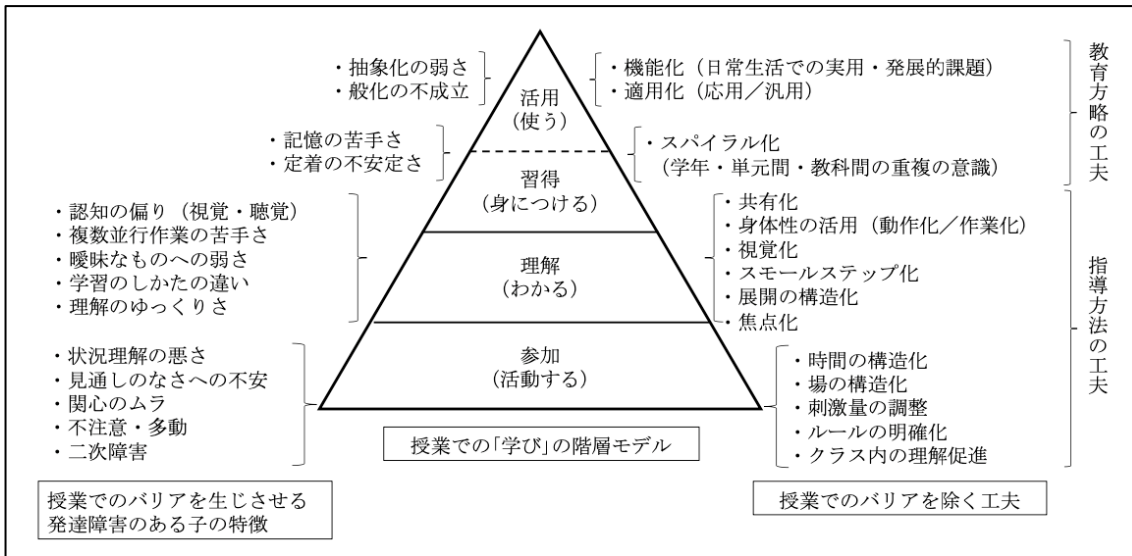


図1 授業UD化モデル (小貫 (2012) ¹⁴⁾ をもとに筆者作成)

2.2 社会科の授業UDの視点

社会科の授業UDの基本的な考え方については、村田 (2013, 2019) が詳しい^{15,16)}。村田 (2019) は、社会科の授業UDは、「学力の優劣や発達障害の有無にかかわらず、すべての子どもが、楽しく「社会的な見方・考え方」を働かせて問題解決できるように、工夫・配慮された通常学級における社会科授業のデザイン」としている (p.6)¹⁶⁾。「社会的な見方・考え方」は、2017年告示の小学校学習指導要領において示された教科の目的と同じで、「社会的な事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」をさす¹⁷⁾。村田 (2019) は、このように社会科の授業UDが目指すものを掲げる一方で、発達障害の子どもをはじめ、社会科の学びに困難さを感じている子どもがおり、実際のところ、社会科の授業UDの実現は容易ではないと述べている (p.14)¹⁶⁾。前述の授業UD化モデルにある「参加」「理解」の階層において、子どもが感じる困難さは、表1のように整理されている。村田 (2019) は、子どもがこのような困難さを感じると、社会科授業への参加・理解が進まないため、社会的な見方・考え方を働かせた問題解決どころではなくなるとしている (p.15-16)¹⁶⁾。このような社会科の学びに困難を感じる子どもが理解できる授業を行うには、「参加」「理解」の階層で指導方法を工夫し、上位階層の「習得」「活用」へと進んでいけるよう工夫することが求められる。

4. 考察

模擬授業の振り返りのチェックシートの各項目は、授業 UD 化モデルの「指導方法の工夫」と「教育方略の工夫」¹⁴⁾に示された視点と村田（2019）の社会科の授業 UD^{15,16)}の視点に対応している。項目①「授業の最初に学習内容についての全体的な見通しを提示している」と項目②「授業の中で、今、行われていることが分かる工夫をしている」は、「時間の構造化」に対応している。項目③「短くわかりやすい指示・説明・発問をしている」と項目④「指示・伝達事項は、聴覚的（言葉）だけでなく、視覚的（板書）に提示している」、項目⑤「板書は、課題、予想、調べた内容、まとめなどを書く場所を決めている」は、「視覚化」に対応している。項目⑥「聞くとき、書くとき、活動するときを区別している」、項目⑦「授業のねらいや活動が焦点化されている」は、「焦点化」に対応している。項目⑧「課題などについて学習内容の細分化を図っている」は、「スモールステップ化」に対応している。項目⑨「ワークシートなどで、学習のすすめ方、段取りがわかりやすくなるよう工夫している」、項目⑩「一つの課題が終わったら、次にすべきことが用意されている」は、「展開の構造化」に対応している。項目⑪「ペア学習やグループ学習など、子ども同士で理解を助ける、深める工夫をしている」は、「共有化」に対応している。項目⑫「実感がわくように動作や作業を取り入れている」は、「身体性の活用」に対応している。また、項目⑫は、村田（2019）が「社会科で子どもが感じる困難さ」として指摘していた「社会科に興味・関心がもてない」のうち、「身近に感じられない」「切実感がない」ことへの対応でもある（p.15）¹⁶⁾。項目⑬「発問で、子どもが興味や関心をもつような工夫をしている」は、「展開の構造化」の一つとして村田（2019）が指摘した「展開の工夫」¹²⁾に相当する（p.20）¹⁶⁾。項目⑬も、項目⑫と同様に村田（2019）が指摘していた「社会科に興味・関心がもてない」こと（p.15）¹⁶⁾への対応として設定した。項目⑭「既習学習の復習を授業に入れている」は、「スパイラル化」に対応している。項目⑮「習得したことを別の課題に適用できる」は、「適用化」に対応している。項目⑯「習得したことを日常生活で使用することができる」は、「機能化」に対応している。項目⑰「社会的な見方・考え方（地理的、歴史的、関係的に捉えること）を取り入れている」は、社会科本来の目標である「社会的な見方・考え方」に対応している。小学校の教員養成課程において、通常学級の模擬授業の評価や振り返りに、授業 UD の視点を取り入れた実践報告や研究は少数にとどまり、本研究のように社会科に関する研究は見られなかった。藤本ら（2018）は、小学校の理科指導法の授業において、授業 UD の視点が、学生が授業を分析したり、省察したりする際の客観的な足場となっていることを明らかにした（p.104）⁵⁾。今回開発した社会科の授業 UD の視点を取り入れた振り返りシートも、学生が授業の分析や省察を行う際の視点となることが期待される。また、藤本ら（2018）は、模擬授業後に実施した学生アンケートで、特に学んだこととして多くの学生があげた視点が、「視覚化」「焦点化」「共有化」であったこと（p.103）、授業 UD が理科の授業のみならず、他の模擬授業でも生かされたことを指摘している（p.104）⁵⁾。このことから、授業 UD の視点は、学生の実践的指導力を向上させるのに役立つと考えられる。

5. 課題

本研究では、小学校の教員養成課程での模擬授業の振り返りに授業 UD の視点を取り入れた振り返りチェックシートを開発したが、いくつか課題がある。まず、本研究で開発したチェックシートは、授業 UD 化モデルの「参加」の階層にある「場所の構造化」「刺激量の調整」「クラス内の理解促進」「ルールの明確化」を除外した。その理由は、これらの視点には学習環境や学級経営に関する内容が含まれており、教員養成課程の学生の模擬授業だけでは達成が難しいと考えたからである。これに関しては、授業設計や学習指導案の作成をはじめ、社会科指導法の授業全体を通して教えていく必要があると考える。次に、小学校の教員養成課程において、授業 UD の視点を取り入れた振り返りの実践報告や研究は少数にとどまるが、教員研修用として多くの都道府県が UD 授業ハンドブック等を発行している。これらで用いられているチェックリストの項目を検討することは、今後の課題としたい。最後に、本研究で開発したチェックシートを、実際に教員養成課程の模擬授業で用いることで、妥当性を検討し、改善を図っていく必要があると考える。これも今後の課題である。

注

- †1 例えば、岡山県教育委員会は、2013 年から「特別支援教育の観点を取り入れた通常学級の授業づくり」として、通常学級における授業 UD 化を促進している¹³⁾。
- †2 村田 (2019) は、授業 UD 化モデルの「参加」と「理解」の階層における「授業でのバリアを除く工夫」として上げられた項目を「展開の工夫」と「技法の工夫」の2つに分類している (p.20-21)¹⁶⁾。

文 献

- 1) 木内剛：模擬授業。日本教育方法学会編，現代教育方法事典，図書文化，東京，p.506，2004.
- 2) 中央教育審議会：今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）。
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1212707.htm，2006。
(2024.1.22 確認)
- 3) 長谷川望：模擬授業及び振り返り方法の検討。東邦学誌，第 45 巻第 2 号，99-107，2016.
- 4) 日本 UD 学会：日本 UD 学会ホームページ，掲載年不詳。
<http://www.udjapan.org/message.html> (2024.1.22 確認)
- 5) 藤本勇二，中西徳久，野口大介，松井香奈：理科指導法において「授業 UD」に基づく授業改善の試み。武庫川女子大学学校教育センター年報，第 3 号，97-106，2018.
- 6) 竹内正裕：ユニバーサルデザインの授業における学生の視点。名古屋女子大学紀要，65，269-276，2019.
- 7) 竹内正裕：ユニバーサルデザインの授業における小学校教員養成課程学生と保育士養成

- 課程学生の視点. 名古屋女子大学紀要, 66, 201-211, 2020.
- 8) 天野智裕: 若手教員の指導力向上に関する事例的研究—ユニバーサルデザインの視点からのアプローチの有効性について—. 三重大学教育学部研究紀要, 第 69 巻, 445-451, 2018.
- 9) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課: 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について.
https://www.mext.go.jp/content/20230524-mext-tokubetu01-000026255_01.pdf, 2022.
(2024.1.22 確認)
- 10) 文部科学省: 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示). 日本文教出版社, 大阪, 2018.
- 11) 小貫悟: 改訂ポイントからみる「社会科授業のユニバーサルデザイン」. 社会科教育, 706, 4-9, 2018.
- 12) 浅原孝子, 小貫悟: 授業のユニバーサルデザインを実現する 4 つのステップとは?
<https://kyoiku.sho.jp/194884/>, 2022. (2024.1.22 確認)
- 13) 岡山県教育庁特別支援教育課: 通常学級の特別支援教育ガイド—通常学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり—.
https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/420961_3599396_misc.pdf, 2017.
(2024.1.22 確認)
- 14) 小貫悟: 授業のユニバーサルデザイン化を達成するための視点. 桂聖, 廣瀬由美子 編著, 授業のユニバーサルデザイン, Vol. 5, 43-47, 2012.
- 15) 村田辰明: 社会科授業のユニバーサルデザイン—全員で楽しく社会的見方・考え方を身に付ける!—. 東洋館出版社, 東京, 2013.
- 16) 村田辰明編著, 社会科授業 UD 研究会著: 実践! 社会科授業のユニバーサルデザイン—展開と技法—. 東洋館出版社, 東京, 2019.
- 17) 文部科学省: 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 社会編. 5 版, 日本文教出版社, 大阪, 2018.